

日常にある儀式 現代の冠婚葬祭のための空間

Ritual of a day to day

Space for ceremonial functions of modern

佐藤信治¹, ○遠洞躍斗²

Shinji Sato¹, ○Yakuto Endo²

The "ceremony" -- what from the time when the Yayoi period and Himiko were in these two characters -- it is -- it has been carried out in the form. By the famous thing, the ceremony in which it prays for pray for rain, a good harvest, or a big haul etc. has been held. When holding a ceremony, it was common that the feeling of gratitude is beginning. religion should use a ceremony of late by there being nothing at an individual -- a ceremony -- a soul -- it was got blocked and the "heart" was intervening. This "heart" becomes a form as a religion behind. A series of actions of praying to God and appreciating to the given thing are the forms of the ceremony traditionally inherited from ancient times as a ceremony..

1. 背景

1-1 儀式の成り立ち

「儀式」.この2文字は弥生時代,卑弥呼がいた時代から何かしらの形で行われてきた.有名な物では,雨乞いや豊作や大漁を祈願するなどといった儀式が行われてきた.儀式を行う際に共通していたのは,感謝という気持ちが始まりであることである.この頃の儀式には個人が宗教を持っていないにしろ,儀式には魂,つまり「こころ」が介入していた.この「こころ」こそが後に,宗教として形になっていく.神に祈り,与えられた物に対して感謝するという一連の行動が儀式として昔から伝統的に受け継いできた儀式の形である.孔子が現れる時代になり,孔子は「社会の中で人間が同幸せに生きるか」ということを追求してきた.その答えとして「こころ」を扱う,儀式の重視をすることとした.しかし,現代で受け継いでいる儀式は形式のみで,ほとんどの儀式は本来の形を失って,現代に存在している.

1-2 儀礼文化

儀礼文化は変容した部分と変化せずに持続している部分があるように見える.伝統儀礼が衰退しても,それは表現の仕方や形式が変化しただけであって,本質的には変化がないという議論もある.しかし,現代の儀礼文化を見てみると,現状を理解するためのキーワードが「持続」ではなく「変容」であることは一目瞭然である.戦後の,とくに高度経済成長期以降の儀礼文化の変容は,自らの実体験から自明であり,しかも根本的なものであることが承知できるからである.文化が「持続」していることは確かだとしても,戦後の儀礼文化を理解するためのキーワードは明らかに「変容」であることが言える.

1-3 人生儀礼

「冠婚葬祭」という言葉がある.これは,私たちが生きていくうちに必ず行う儀式,いわば人生儀礼である.冠婚葬祭の中核を成す思想は「礼」から始まっている.この「礼」を形にした物が冠婚葬祭という儀式として存在する.しかし,現代の冠婚葬祭という儀式には「変容」が見られる.現代における人生のあり方は,多様性という言葉によって特徴づけられる.たとえば,結婚することを選択しない女性や男性が存在する.あるいは,親にならないことを選択する夫婦が存在する.散骨や個人墓は,たんなる物珍しさから確実な傾向へと移っている.人生に関する多様性は,高度経済成長期以前と以後では格段とことなっている.儀礼を行う母体が,集団を基盤とするものから個人や,狭い個人の集団としての家族へと移行することによって,儀礼は実施しないことも含めて多様性を示すことになったのである.この多様性は個人や家族が積極的に自らのライフスタイルを選択し構築するという積極的意味合いだけでなく,行動様式や生活様式の規範の崩壊と不一致という積極的な意味でも定義することができる.つまり,社会的儀礼でなくなった儀礼は強制力を持たず,個人は意味付けられることなく放置されるのである.子どもから大人への儀礼は区切り目としての意味を喪失してしまった.行政の行う成人式は,大人であることの自覚を声高々に叫ぶが,試練も社会的承認も存在しない儀礼は,青年を真の大人へと変容させる力を持たない.

2. 儀式の役割

儀式の果たす主な役割は,まず「時間を生み出すこと」にある.日本における儀式あるいは儀礼は,「年中行事」と「人生儀礼」の2種類に大きく分けられる.これ

1 : 日大理工・専任講師・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U.

2 : 日大理工・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U.

らの儀式はその意義として「時間を生み出す」役割を持ってきた。そして、年中行事が「1年」に基づくのに対して、人生儀礼は「一生」に基づく儀式である。現代での代表的なものには初宮参り、七五三、成人式、そして、結婚式、葬式が挙げられる。このように、人生儀礼は「時間を生み出す」ことによって共通性を有している。

3. 基本計画

儀式の特徴である「礼」と「時間を生み出す」という点を用いる。普段の町並みに儀式の場を挿入する。普段は商業や地域活動の場として使用されているところを儀式を行う日に合わせて用途を変化させていく。地域一帯を儀式の場として変化させていくことで、非日常を感じさせる時間を生み出し、地域に感謝させるプログラムとする。また、冠婚葬祭では細く長い道を大事にする。この、道という装置を使って現代の冠婚葬祭のためのプログラムを挿入していく。



fig2. The way in a site of a religious service



fig3. The way in a wedding hall

4. 建築計画

既存の建物の中で空き家や空き店舗の場所に儀式に必要なプログラムを持たせる。また、日常的な使い方を併せ持たせ、儀式を行う非日常と日常のスイッチを行う。儀式本来が持つ「時間を生み出す」という特性を現在使われている住宅街の中の使われていない空き家を利用することで、日常の風景に新たな時間を生み

出すことを図る。止まってしまっている都内の時間に新たな時間を生み出す計画とする。冠婚葬祭全ての機能をひとつの空間に集約することによって、人生儀礼全て体感できる施設になる。



fig4. Non-every day is inserted daily

5. 対象敷地

対象敷地は、東京都足立区千住宿場町通り商店街。日本国内の空き家問題が加速していくなか、足立区では2011年に都内で初めて老朽化した家屋に解体や改修を義務づける条例を制定した。しかし、空き家問題は深刻化するばかりで、空き家の利用方法が明確にされていない。そこで、現存する空き家のスペースを利用して冠婚葬祭のための施設の提案を行う。商店街から川に向かって施設を伸ばしていき、



fig5. It is a shopping center as the Senju, Adachi-ku, Tokyo post town

6. 参考文献

- [1] 「日本人の一年と一生 変わりゆく日本人の必要性」,232p,2005年発行
- [2] 齊藤美奈子「冠婚葬祭のひみつ」,224p,2006年発行
- [3] 「儀式文化創造シンポジウム」一条真也のハートフルブログ. <http://d.hatena.ne.jp/shins2m+new/20130809/p1>
- [4] “空き家が抱える問題点を解消するには?”
”http://www.asahi-kasei.co.jp/maison/chiebukuro/report/sijou/2013/06/post_1.html[5]“GoogleMap”https://maps.google.co.jp/maps?q=%E5%8C%97%E5%8D%83%E4%BD%8F&ie=UTF-8&ei=jVVEUv2kLcfSkgXy7IHIDA&ved=0CAoQ_AUoAg